

「農」の専門部会
～ 調査検討経過について～

- 1 「農」の専門部会～調査検討経過について～ P 1
- 2 小学校における農業体験、食育等に関するアンケート . . . P 3
- 3 農のアイデアシート P 7
- 4 課題解決のための調査検討シート P 8
- 5 王禅寺小学校における農業体験、食育等に関する取組
状況について（報告） P 9

麻生区区民会議 「農」の専門部会 ~ 調査検討経過について(第1回~第3回) ~

第1回部会(19.1.16)

議事

- 1 正副部会長の選出
・部会長 尾中委員
・副部会長 高桑委員
- 2 専門部会の名称
~「農」の専門部会~
- 3 課題の絞込み
~「農を通じての地域づくり」~

市民農園を通じての交流
市場、直売所を通じての交流
食育を通じての交流

4 課題の調査検討

課題の調査検討 その1

農業体験、食育に関するアンケートの実施
対象の検討
項目の検討

課題の調査検討 その2

麻生区内において「農」を通じた「ふれあい」、「交流」事業を実施している団体からの意見聴取の実施

[関係者として出席を依頼]

体験農業・親子で米づくり実行委員会(区・協働推進事業)
こども農業体験教室
(JAセレサ川崎)

第2回部会(19.2.14)

議事

- 1 課題の調査検討

課題の調査検討 その1

アンケート内容の検討
対象 麻生区内公立小学校16校
実施時期等 小学校校長会に依頼
回収予定~3月末
項目 委員による意見交換後、部会長に委任

課題の調査検討 その2

麻生区の特徴である「農」を通じて、どのように「地域づくり」につなげていくか

[現状と課題の把握]

体験農業・親子で米づくり実行委員会
・山崎実行委員長、地域振興課長
こども農業体験教室
・森 JAセレサ川崎営農課長

第3回部会(19.3.8)

議事

- 1 区民会議への部会報告について
(1) 提出資料
調査検討経過について
課題解決のための調査・検討シート
小学校あてアンケート
体験農業の概要(抜粋)
次世代・地域住民との交流事業の概要(抜粋)
- (2) 報告者
尾中部会長
- 2 課題の調査検討

課題の調査検討 その1

アンケートの実施
2月27日 校長会に極力依頼
3月7日 アンケート送付
3月28日 回答期限

課題の調査検討 その2

課題

土日など、子供が時間をとれない
農園への送迎ができない(親が忙しい)
参加者が集まらないというケースもある
学校の先生の負担が重い、知識・興味不足
リーダー、ボランティア、サポーターの不在
農地がない 参加者の限定(親子、等)
閉鎖的な感がある 活動資金不足
他の事例等の情報が不足

課題の調査検討シート(P8)
「3.課題の解決策のアイデア」へ

麻生区区民会議 「農」の専門部会 ~ 調査検討経過について(第4回~第6回) ~

第4回部会(19.4.19)

議事

- 1 課題の調査検討
(1) 麻生区内市立小学校における農業体験、食育等に関するアンケートについて
(2) 課題の解決策のアイデア、課題解決策の具体化に向けた検討について

課題の調査検討 その1

アンケートの集計結果を受けての意見交換、今後の方向性の検討

・小学校の農業体験を通じた地域づくりの取組を行う。

課題の調査検討 その2

「課題の解決策のアイデア」の実現の可能性についての検討

第5回部会(19.5.9)

議事

- 1 課題の調査検討
(1) 麻生区内市立小学校における農業体験、食育等に関するアンケートについて
(2) 課題の解決策のアイデア、課題解決策の具体化に向けた検討について

課題の調査検討 その1

アンケートの集計結果を受けての今後の方向性の検討

・モデル校を1校選定して取組を行う。
[選定理由]
食育への取組が行われていること
学校から要望が出ていること
地域づくりに関連した取組が期待できること

課題の調査検討 その2

「農のアイデアシート」を使用時の交流イメージについての検討

第6回部会(19.5.22)

議事

- 1 課題の調査検討
(1) 麻生区内市立小学校における農業体験、食育等に関するアンケートについて
(2) 課題の解決策のアイデア、課題解決策の具体化に向けた検討について
- 2 区民会議への部会報告について
(1) 提出資料
調査検討経過について
アンケート集計結果表
農のアイデアシート
課題解決のための調査・検討シート
(2) 報告者
尾中部会長

課題の調査検討 その1

アンケートの集計結果を受けての今後の方向性の検討

・事前調査結果等を受けての検討
リーダーの必要性
リーダーの探し方、誰にどのような方法で呼びかけるか

課題の調査検討 その2

「農のアイデアシート」を使用時の交流イメージについての検討

小学校における農業体験、食育等に関するアンケート集計表(1/4)

区 分		王禅寺	岡 上	金 程	真福寺
1. 現在の取組	教育カリキュラム、課外授業など	・1～6年 - 農園で勤労生産的奉仕の活動としてサツマイモを植えて収穫している。 ・園芸委員会 - トマトやナスなどの苗を購入し、育てたり、大根をタネから育てたりして収穫している。 ・1、2年 - 生活科の学習として、トマト、ナス、オクラなどを育て収穫している。 ・5年 - 総合的な学習として、イネを田植えから稲刈り、脱穀と体験し、最後にごはんを炊いて味わっている。	・1～6年 年間を通して畑で野菜栽培をしている ・18年度実績・・・ じゅがいも、人参、大根、ほうれんそう、小松菜、かぶ、きゅうり、インゲン、カボチャ、なす、トマト、ミニトマト、茎イモ、にがうりなど。また、全校での取組としてサツマイモとブロッコリーの栽培 ・5年 田んぼを使ってもち米づくり、バケツ稲でうるち米づくり ・6年 丸山でたけのこ掘り ・4～6年 しいたけの栽培	・5年生 総合的な学習「稲を育てよう」 ・校内に田んぼを作り田植えから収穫、脱穀まで行い収穫したもので、お米パーティーやなわなひを行った。	食育に関して(栄養職員が授業に関わったもの) ・1年生 「いろいろたべよう」 ・2年生 「いろいろたべようパート」 ・4年生 「すくすく育てわたしの体」 農業教育に関して ・1、2年 生活科 野菜・サツマイモの栽培、収穫、調理 ・4年 総合 サツマイモを育てよう ・5年 総合 おいしい真福寺米を作ろう
	給 食	・栄養士が給食だよりの中で、給食に使われている野菜について紹介し、啓蒙している。	・丸山のたけのこを使ったたけのこご飯 ・サツマイモを使ったサツマイモご飯 ・ほうれん草を使った味噌汁 ・ブロッコリーを使ったシチュー ・もち米を使った赤飯とたけのこご飯	・学校栄養職員(巡回)による1年生児童への食物と健康についての話	・学校敷地内で収穫された筍と栗を自校献立で使用した。
	それ以外	特になし	・学校花壇での栽培活動(ヘチマ、大葉など) ・丸山に植生している茶の木の学習を発展させて、お茶を飲む活動	・「ふれあい農園」、校外にある農園(畑)を各家庭に開放し、家族で農作物を栽培しているNP 環境教育フォーラムの方に講師として指導してもらっている。	特になし
2. 学校農園の状況	学校農園の有無	有(50㎡)	無	有(25㎡)	有(200㎡)
	校外農園の有無	有(140㎡、170m、徒歩7分)	有(300㎡、10m) 地域の方から借用	有(210㎡、400m、徒歩10分)	無
	校内の農産物	イネ、トマト、ナス、インゲン、ダイコン、ピーマン、オクラ、カボチャ		米	ピーナッツ、ヘチマ、さつまいも、瓢箪、えだ豆、カボチャ、トウモロコシ、キャベツ、ミニトマト、ジャガイモ、ナス、カブ、キュウリ、菜の花、小松菜、ジュース用トマト、ブロッコリー、春菊
	校外の農産物	サツマイモ	さつまいも、じゃがいも、ブロッコリー、大根、ほうれん草、とうもろこし、にがうり、クキイモ、小松菜、かぶ、にんじん、いんげん、なす、かぼちゃ、きゅうり、トマト、ミニトマト、しそ	トマト、ジャガイモ、サツマイモ、ナス、キュウリ、スイカ、カボチャ、ニンジン、カブ、ネギ	
3. 地域との連携・交流	地域(地元農業従事者)	・5年生の米づくりの体験学習では、地元の農家の方に支援してもらっている。 ・苗、鳥の害を防ぐネット、脱穀、ストーブでのご飯炊きなど、長時間に渡ってお世話いただき、児童とその都度、交流が図られている。	・畑を貸して下さっている方による道德の授業(3年) ・野菜栽培のアドバイス(6年) ・キュウリの苗をいただいていた指導(4年) ・田んぼでの田おこし、あぜぬり、田植え、消毒、稲刈り、はさがけ、脱穀などの援助及び指導(5年)	・5年生～総合的な学習「稲を育てよう」 ・講師として田植えの仕方や脱穀等の実技指導をしてもらっている。	・5年生～総合的な学習「おいしい真福寺米を作ろう」で、学区内の井上さんの田んぼをお借りして稲作に取り組んでいる。
	家庭	特になし	・田植え、稲刈りでの協力依頼(5年)	・「ふれあい農園」 学校で希望する家庭へ農園を開放して活動している。 平成18年度実績～18件	特になし
	その他地域住民	特になし	特になし	特になし	特になし
4. 「農業体験」、「食育活動」の今後について		・日頃食べているお米や野菜がどのような物で、どのように成長し、どんな世話が必要なのかを子どもたちから体験しておくことはとても大切なことである。従って、学校と地域の人たちを農業を通して結びつけてくれる広報的な役割を区民会議に期待している。	・恵まれた地域素材を今後も子どもたちの学習活動の中に位置づけて取り組んでいきたい。また、こうした取組を多くの方々に情報発信していきたい。	特になし	・稲作の農業体験は、「田植え」と「稲刈り」の体験のみである。稲作に関わる体験(雑草取りや脱穀など、児童が関われそうな体験)を増やしていきたいと考えている。そうすることで、より現実的な農業体験となるのではないかと考える。
5. 「農業体験」、「食育活動」を推進する上での課題・問題		・耕したり、世話をする時間の確保 ・夏休み中の米や野菜の世話 ・安いタネや苗などの入手 ・野菜づくり、米づくりについての指導を受けてみたい	・地域の方や有識者の方から年間を通して指導や支援をいただいているが、畑や山・田んぼの管理は当然学校の職員と児童で行わなければならない。時間や人手が足りないという根本的な問題と、教師の方で準備(活動をするに当たっての基礎知識の不足や学習計画を作る上で)面での問題がある。	特になし	・現時点では特に問題となっていることはない。
6. 要望・意見	行政に対して	・地域で農業をしている人の紹介(氏名、場所、育てている作物など)	・地域の方には現状で十分な支援や援助をいただいている。ただ、こうした体験を伴うダイナミックな活動にはたくさんの活動時間(草とりなどの日常的な活動)が必要になってくる。地域の方との良好な関係を維持して子ども達の学習活動に生かしていけるよう、多くの方に、取組に対しての理解を図っていけるとよい。	特になし	特になし
	地元農業従事者に対して	・安いタネや苗を提供してほしい ・野菜や米づくりの体験への呼びかけ	・土地を貸して下さる方をはじめとても親切に対応していただいている。このような力がないと「農業体験」や「食育活動」は成り立たない。	特になし	・大変ご協力をいただいております。有り難く思っています。今後も継続を図っていくとともに、児童との関わりを深めていきたい。
	家庭や地域住民に対して	・プランターや麻・ビニール袋でも育てられる野菜があるので、家庭において子どもと一緒に育ててもらおうとよい体験となる	・保護者も非常に協力的である。	特になし	特になし

小学校における農業体験、食育等に関するアンケート集計表(2 / 4)

区 分		千代ヶ丘	東柿生	虹ヶ丘	白 山
1. 現在の取組	教育カリキュラム、課外授業など	・学習指導要領に基づいて、各教科、総合的な学習の時間のカリキュラムに栽培活動、体験活動として位置づけている。	・小学校では農業教育という概念はないので、農業に関する学習ととらえて回答します。また、食育の範囲はとても広いので栄養指導の範囲で回答します。 <農業に関わる学習> ・2年 生活科 夏野菜の栽培 ・3年 社会科 地域の土地利用を調べる学習の中で多くの農地があることと農地で働く人の工夫や苦労について学習している。 ・5年 社会科 稲作農家、畑作農家、都市近郊農家などについて総合的な学習。今年は、稲作体験を行った。 <食育> ・5年 家庭科 野菜の調理、おやつづくり ・6年 家庭科 一食の献立、会食会等を通して栄養指導と楽しい給食 ・1～6年 学活・保健体育 体を強くなる食べ物 他	・校内に「ひろばたけ」の名称の多目的な広場・畑があり、生活科や総合的な学習の時間に活用している。 6年と1年でサツマイモを栽培し、収穫後サツマイモパーティーを行った。 5年が稲作を行った。 4年がヘチマ、ヒョウタン。 3年がナス、キャベツ。 2年がトマト、大根。	生活科、総合学習の時間・・・カリキュラムに位置づけている。 ・1、2年「くぐくん育てサツマイモ」苗植え～世話・記録～いもほり(黒川)～収穫祭発表会 ・3年「やさいを育てよう」土作り～苗植え～世話・観察～収穫～料理して食べる ・4年「農園で育てよう、大きなあれ」 ・5年「おいしい白山米を作ろう」稲を育てる体験、課題解決～学習発表会 ・6年「みんなで作ろう、思い出いっぱい的一年間」栽培実行委員会を作り活動する「秋の白山祭」・・・学習発表会6年「日本食を追って」～せんべい手焼き体験・ポン菓子など 農業クラブとしての栽培活動
	給食	・万福寺にんじんを給食で出している。その他自校献立で使用した野菜もある。	・給食日より等を通して、「健康と栄養、食事」「外国の料理と栄養」などを啓蒙している。 ・給食指導を通して、食事のマナーや楽しい会話の持ち方を指導している。 ・献立の説明を通して、「旬な材料と栄養、健康」や食事と栄養、歳時の関わりなどを指導している。	・給食だよりに、食材や栄養について関心を持ってもらえるような話を載せている。 ・給食の残さから肥料を作っていることを伝え、食べ物を大切に思う思いを持たせている。	・自校献立の日に地産品(県内産、麻生区内産、学校農園産)を取り入れたり、親子で給食を食べる日を設けたりして、地産地消への理解を図ってきた。 [給食] ・食材への関心を持たせるように、一言説明してから「いただきます」をしている。 ・会食やマナーやルールを身につけさせる。 ・給食を準備してくれた人に「ありがとう」の気持ちを育てる。
	それ以外	特になし	特になし	特になし	・総合や生活科の他に家庭科・保健・社会・理科・学活などで食育関連の授業を実施した。
2. 学校農園の状況	学校農園の有無	無	無	有(200㎡)	有(2300㎡)
	校外農園の有無	有(250㎡程度、道路をはさんで向い側)地域の方から借用	有(900㎡、10m、徒歩20秒)	無	無
	校内の農産物			イネ、サツマイモ、ナス、トマト、ヘチマ、ヒョウタン、ピーマン、大根、キャベツ	さつまいも、かぶ、トマト、こまつ菜、きゅうり、米、大豆、水菜、落花生
	校外の農産物	さつまいも、小麦、カボチャ、万福寺にんじん、インゲンなど	きゅうり、なす、落花生、とうもろこし、かぼちゃ、すいか、にんじん、だいこん		米
3. 地域との連携・交流	地域(地元農業従事者)	・「農に関して取り組む」の意味をどう考えなのかよく分からないが、本校では、地域との連携交流を通して、野菜等を栽培し、育て食する間、育てる上での苦労、大変さを学んでいく総合的な学習で扱っているため、社会科として農業について深く考えたり、学んだりはあるではない。	・5年 総合的な学習「お米づくり」 教材園(花壇程度)に手を加えて田んぼとする。早野の保護者のご協力とご指導をいただきて苗づくり、田植え、脱穀までの体験を行う。脱穀は、取れた米は少量であったが、脱穀機を学校に持参してもらい、子どもたちと一緒に脱穀をしていただいた。 ・1年～6年 生活科、総合的な学習 野菜づくり・花づくり 学校園が広いのでトラクターで年2回耕していただいている。	・地域めぐりの中で、農業を営まれている方の畑に伺い、話を聞いた。 ・直接農業にかかわる連携ではないが、地元の農業を営まれている方が地域の歴史に詳しいので、30周年の副読本を作成するに当たり、早野の昔の様子等についての話を伺った。	・地産品を使った給食で、片平で野菜を作っている方から、ブロッコリー、かぶ、にんじん、ジャガイモなどを届けてもらい、取り入れた。近くの農家で田植え体験をし、米作りについて教わった。いただいた苗を学校園の田んぼにも植え、収穫までできた。 ・「白山祭」(親子での食育関連行事)で、地元野菜についてのクイズを取り入れ、作っている人の紹介をした。
	家庭	・家庭で農家をやっているところもあるので、PTAの活動として、学校に力をお貸し下さっている。	特になし	・「ひろばたけ」での稲の刈り取りや野菜の収穫時のお手伝い、また、収穫した野菜を調理するときにお手伝いをいただいた。	・農園で各学年が作物を育てたが、夏休み中は、親子で草取りや水やりなどの世話をした。
	その他地域住民	・複数の農家の方や地域の方のご支援をいただき、梅、野菜作り、万福寺ニンジン、麦まき(小麦栽培)などを行い、自校献立にも使用した。	特になし	・本校には地域の方が運営するコミュニティがある、教育活動にたくさんの協力をしていただいている。その1つに、1・2年生の生活科で、校庭になる杏の実を使ったの杏ジャムづくりがある。	特になし
4. 「農業体験」、「食育活動」の今後について	・今までやってきていることを、どう維持していくか。 ・疑似体験の状況から、農業として体験するまでには、とていできないが、どこまで近づけることができるか。 ・食育を家庭教育と結びつけ、しつけ、生活習慣に役立てられればと考えている。	<農業体験(栽培活動と読み替えて)> ・低学年では植木鉢を使って、高学年では学級単位で栽培を行っているが、自分が育てている意識が希薄であったり、体験としては水をあげる、雑草を取るといった作業になりがちである。 ・学校園で体験する中心的学年を選び、元肥を入れる、種をまく、間引く、徒長枝の間引きなど、栽培に知恵を体験させたい。 ・食育については、地産地消の考え方が一般化してきている。麻生区として考えたときには実現が難しいところもあるが、地産の範囲を高津区あたりまで広げて考えると可能になる。川崎産の野菜を使って、旬の取れた野菜のおいしさを感じさせたりと近郊農業の役割や働く人への意識を高めたりする給食と学習を進めていきたい。	・指導計画に位置づけ、継続的に取り組んでいくこと。異学年での合同の取組を増やしていくことを進めていきたい。	・2年間「学校給食を活用した地産地消推進事業」協力校として、食育に関する研究を進めてきたが、今後も、栽培活動を中心に続けていきたい。	
5. 「農業体験」、「食育活動」を推進する上での課題・問題	・予算と人の問題。最近、ボランティアという言葉がはまっているが、お手伝いしてもらえれば、謝礼も出さず、昼食も出す、真のボランティアで行政が人を派遣してくれる制度をつくって、どんどん学校に送り込んでいただけるとありがたい。	・農園が広いので、授業や清掃時間を活用しても児童だけで除草作業を行うことは難しい。特に夏季休業中に除草作業が行えない。また、害虫への農業利用に制限があり、就学時間帯に行えない。基本的に学校として散布を行っていないため、その害虫の影響が大きい。 ・教師の農業知識・経験が少ないため、徒長枝の剪定や添え木など基本的な手入れができない。農業体験協力者が必要である。 ・低・中学年で食育を行うためには、学校のカリキュラムを見直す中での時間の確保が必要となる。給食の中で地産地消を通して食育を行うためには、どの時期にどんな野菜を必要としているのか、生産者と栄養士の情報交換を行うことが必要である。また、地域として伝えていく食文化があるときは、それを目にするしにしていける必要がある(万福寺にんじんも考えられるが、栽培の時間が大変。)	・自分達で栽培活動を行うことは意義あることで、活動自体も子ども達は楽しく喜んで取り組んでいた。そこから、生産活動の意味や食べることの意味、自分や人との関わりについてどう指導するかが課題と考えている。	・近くに農業について教えてくれる人がいなくて困った。 例 - 「大豆」の育て方、土づくり、肥料など ・家庭との連携の仕方が難しい。プライベートに関わってくることもあり、踏み込めないことがある。	
6. 要望・意見	行政に対して	・今まで学校がやってきたことを、あえて行政がやるうとしている意図が分かりませんが、「予算と人」のことを先程も書きましたが、学校支援はほとんどやっていただきたい。	・前問で答えた問題点、課題に対する情報の提供、人材の紹介を積極的に行っていただきたい。	・人材の紹介や予算の確保をお願いしたい。	・栽培の仕方などアドバイスしてくれる人を紹介してほしい。
	地元農業従事者に対して	・大変お世話になっている。	・地域の方には、相談させていただくと気持ちよく答えていただいている。できれば、栽培指導について相談させていただきたい。一緒に農業体験のねらいと支援について話し合う機会を作りたい。	特になし	特になし
	家庭や地域住民に対して	特になし	・今後の学校の活動への理解と協力をお願いしたい。	・子ども達の健康を考えたとき、食育の大切さを家庭と一緒に考え、実践できることが大切と思う。そのためにも情報を提供したり、啓蒙を進めたりすることが必要になると思う。	特になし

小学校における農業体験、食育等に関するアンケート集計表(3 / 4)

区 分		百合丘	片 平	柿 生	西生田
1. 現在の取組	教育カリキュラム、 課外授業など	・家庭科 見直そう毎日の食事 みそづくり ・総合的学習 米作りに挑戦 米づくり	・1・2年 生活科学学習の中で、古沢体験農園でのさつまいも栽培 ・3～5年 元PTA会長の畑を借用して学校園でのさつまいも栽培 (総合的学習) ・5年 保護者から稲もみをいただき、発泡スチロールでの稲作体験(平成18年度はうまくいき、収穫ができ、おにぎりにして食べた。)(理科・総合)	・2年 - 学年園でさつまいもの栽培、野菜の栽培(生活科) ・3年 - 地域の農業について(社会科)、学年園で野菜の栽培(理科) ・5年 - 学校田で稲の栽培(社会科、総合的な学習の時間)	・5年 - 総合「バケツ稲作り」、1人1つのバケツを用意し稲を育てた。種～収穫まで観察を続けることを通し、稲の一生を学習した。 ・3年 - 総合「教えて、町の達人」麦作り、そば茶作りを地域の「多摩美の森の会」の協力を得て実施した。麦刈り、そば刈りを体験させていただいた。 - 社会科、地域の農業を見学させていただいた。畑の工夫や園芸の仕事等見学、インタビューの協力をお願いした。
	給 食	・給食だより 給食試食会	・地場の農産物を地域の方に協力してもらって、自校献立に取り入れた。 (例) たけのこご飯・ブロッコリーの塩ゆで・枝豆の塩ゆで など このような時は、栄養士から地元で取れた野菜であることを校内放送や書面で家庭にPRしている。	・2年 - 食べ物の働きを知ろう 学校栄養職員と学級担任が、学級活動の時間に指導	・地場産の農産物を使用するのは、畑が少ないため無理だったが、少し広い地域を考えて、来年は農協(JA)より購入できたらと思う。
	それ以外	特になし	・元PTA会長の畑に何度か出向き(ほうれん草やブロッコリー - の栽培の実際をみて)そこで上手に育てる工夫を知り、学校園(校内)で実際にカブ・人参・ほうれん草を育てている。時々、様子を見に来校して下さった。	特になし	特になし
2. 学校農園の 状況	学校農園の有無	無	無	有(30㎡)	無
	校外農園の有無	無	有(330㎡、600m、徒歩10分)	無	無
	校内の農産物			稲、さつまいも、ブロッコリー、カリフラワー、キャベツ、ミニトマト、キュウリ、ナス、ピーマン、水菜、小松菜、ほうれん草	
	校外の農産物		さつまいも		
3. 地域との 連携・交流	地域(地元農業従事者)	特になし	・元PTA会長の畑に何度か出向き(ほうれん草やブロッコリーの栽培の実際をみて)そこで上手に育てる工夫を知り、学校園(校内)で実際にカブ・人参・ほうれん草を育てている。時々、様子を見に来校して下さった。	・さつまいもの栽培、野菜の栽培の指導 ・地域の畑作についての話を聞く ・稲作の指導	・3年、2年生の児童が地域の農業の見学に行き、見学やインタビューをさせてもらった。
	家 庭	・家庭科「毎日の食事 みそづくり」のみそづくりの時、授業参観時に保護者に協力をお願いした。	・ビニール袋で育てる大根の栽培を実践した時やミニトマトを鉢で栽培したときは、長期休業中に家に持ち帰り観察・記録とともに家庭で食べる体験もしてもらった。	特になし	特になし
	その他地域住民	特になし	特になし	特になし	特になし
4. 「農業体験」、「食育活動」 の今後について		・校庭で作れる野菜などを子ども達に体験させたい。 ・子ども達がつくった野菜などを自校献立に何かを使えないか考えてみたい。 ・うどん、みそなど手づくりできる教職員もいるので、できれば総合的学習にカリキュラムを位置づけて食育に力を入れていきたい。	・現在行っている活動を続けていけたらと考えている。いろいろなことを急激に取り入れることはやはり難しさがあり、継続させながら、課題があれば、改善の方法を考えていきたい。	・児童の生きる力を育て、勤労生産意欲を高めるために、教科、特別活動の時間帯を活用して、各学年に応じた取組を進めていきたいと考えている。	・4月に入ってからカリキュラムが考えられるので、今後のことについては、詳しいことは決まっていない。
5. 「農業体験」、「食育活動」を 推進する上での課題・問題		・カリキュラムの充実 ・人的配置(栄養士等)	特になし	・単独の教科や学年の取組ではなく、複数の教科、領域にまたがり、かつ、全校児童にかかわる活動なので、1年から6年まで、見通した系統だったが指導が望まれる。そのため、関係職員の協働を必要とするが、時間の設定が難しい。 ・職員研修の確保	・夏休みなどの休みをはさみ連続しての世話や観察が難しく、充分な手入れができにくい。
6. 要望・意見	行政に対して	・農業体験する場の設定	・こうした活動に使える財源が欲しい。そうすると、活動の場が広がると思う。	・児童や保護者を対象とした催しをして、楽しみながら生活を豊かにするよう啓発してほしい。	特になし
	地元農業従事者に対して	特になし	特になし	特になし	特になし
	家庭や地域住民に対して	・子ども達が食に関して、興味関心がもてる様な家庭教育	特になし	特になし	特になし

小学校における農業体験、食育等に関するアンケート集計表(4/4)

区 分		南百合丘	長 沢	麻 生	栗木台
1. 現在の取組	教育カリキュラム、 課外授業など	・学年別、食に関する指導(食育)の年間カリキュラムを作成し、平成18年度は取り組んだ。 ・課外授業としては、2年生がいも掘りを行い、学校でさつまいもを料理して食べた。 ・5年生で「野菜大発見」と題して、家庭科でいろいろな野菜の特徴を、いろいろな方法で発見することにした。	・食育について - 学校栄養士が各学級に入り、学級活動に入り、学級活動の時間を使って、食育をしている。(今年度は1、2、5年生で行った。) 2年生 - 生活科の学習で、いろいろな野菜を栽培している。 3年生 - 社会科で、地域の農業について学習している。 4・6年生 - 学年園で、野菜の栽培をしている(理科)。 5年生 - 総合的な学習で、稲作りをしている。	・栄養士による授業 4年 保健「育ちゆく体」成長と栄養のついて 6年 家庭科「ありがとうの気持ちを伝えよう」 ・担任による授業 5年 社会科(米作り体験活動) 総 合(カボチャと万福寺ニンジンの栽培活動)	・3年生が育てたさといもを使用して、全校で「芋煮会」を行った。人参、ごぼう、大根、長ネギなどの野菜は学校関係の農家の方から購入した。調理は、「たてわり班」で、全校分の芋煮汁を作った。 ・1年生では、さつまいもの収穫パーティー、5年生では米の収穫祭でおにぎりパーティーを行った。
	給 食	・毎日一口メモ(食材についてや行事等)を食器かごの中へ入れ、クラスで日直や当番が読み上げることにした。	・学校栄養職員が担任と一緒に学活の時間に行っている。給食だよりの中で、給食に使われている野菜について紹介している。	特になし	・地元でとれる野菜を、自校献立日の食材として取り入れた。 ・多摩、麻生地区では、春に「のらぼう菜」が出回るが、スーパー等には並ばないので、初めて食べる子どもも多かったようで、給食だより等で紹介した。
	それ以外	・2年生で「夏の飲みもの」で実際に飲んで、「さとう」が多く入っていることをわからせる授業をした。	特になし	特になし	特になし
2. 学校農園の 状況	学校農園の有無	無	有(70㎡)	有(30㎡)	有
	校外農園の有無	無	無	無	有(徒歩30分)
	校内の農産物		ヒョウタン、ヘチマ、ゴーヤ、ジャガイモ、カボチャ、ミニトマト、ナス、ピーマン、ほうれん草、キャベツ、オクラ、ヒョウタン、キュウリ	米、カボチャ、万福寺ニンジン	ミニトマト、ヘチマ
	校外の農産物				さといも、さつまいも、米(5年生)
3. 地域との 連携・交流	地域(地元農業従事者)	特になし	・5年生、米づくりを地域の方に教わっている(何度か学校に来ていただき指導してもらった。)	特になし	・地元農家の方に畑を借りている。マルチがけや除草作業なども手伝っていただいている。 ・校内でも、ミニトマトを植えるための土を寄付していただき育て方の指導を受けた。田んぼも借用し、田植え、稲刈りの仕方を指導していただいた。
	家 庭	特になし	特になし	特になし	・芋煮会での協力依頼
	その他地域住民	特になし	・3年生、地域の農家に出かけて行き、見学やインタビューをさせてもらった。	・苗や種の提供 ・栽培活動の支援 ・ゲストティチャーとして授業への参加	・春、筍がたくさん生えてくる山があり、地主さんのご厚意で、5年生が筍堀をさせてもらっている。時季が合えば、自校献立にも使用する。
4. 「農業体験」、「食育活動」 の今後について		・課題として、子ども個々が苦手としている野菜を栽培することで、その野菜を食べるようになればと思っている。いつになるかわからないが、働きかけを少しずつしていけたらと思っている。	・5年生は、総合的な学習でバケツ稲作りに取り組んでいる。今後、校内のどこかに「田んぼ」をつくって、本格的な稲作り体験ができればと思っている。	・栄養教諭による授業を増やしていく。 ・地場産の野菜を給食に利用していく。	・地元黒川には、まだたくさんの自然が残っていて、畑もたくさんある。地域の農家の方とのつながりも強いので、農業体験を通して食育につなげていきたい。児童数の急激な増加により、いろいろと制限はあるが、地元でとれる野菜や卵をできるだけ取り入れていきたいと思う。
5. 「農業体験」、「食育活動」を 推進する上での課題・問題		・校庭に場所がない。	・長い休み(夏休み)をはさんでの世話や観察に難があるのが残念である。	・老化による水田の水もれ等、施設面での不備 ・耕地面積が狭く収穫量が少ないので、児童一人一人に栽培の充実感を持たせることが難しい。 ・給食で地場産の野菜を使いたい、収穫の時期と学校で利用したい時に違いがあることや、個人農家のために学校への配送などに問題がある。	・全員参加型にするためには、児童数が多すぎる。 ・畑が遠いため、頻繁に行くことが難しい。
6. 要望・意見	行政に対して	・いろいろと情報がほしい。	・食育については、学校教育だけでは指導しきれない。家庭、地域の力も借り、一緒に進めていかなくてはならない問題だと思う。	・地域の農業従事者との連携のバックアップや資料・情報の提供	・学校栄養職員の1校1名配置
	地元農業従事者に対して	・学校給食の自校献立に地場産の野菜を使用したいが、運搬、量で困難があるので相談にのってほしい。	・野菜作りや米作りの体験学習。稲や苗の供給。	・農産物を時間指定で配送できれば給食に利用したい	特になし
	家庭や地域住民に対して	特になし	・6 - と同じ	特になし	特になし

農のアイデアシート

「農」による交流イメージ

方向性：区民が「農」を通じて交流することができる仕組みづくり

料理や栽培方法を教えて欲しい区民と、知識・経験のある農業者との交流

参加者

全区民
学校の食育等の関係者

小学校へのアンケートから、農業を教
えてくれる人などを必要としている。

どのようなものを区民が求めているか
区民会議ニュースで、「声」を募集

参加者の募集方法

接点

黒川大型直売所
学校
公民館

運営主体

行政
農協
市民団体

内容

地元野菜を使った料理
収穫祭
草もち等の作り方

農業者等

農業者
ふるさと指導士

地元農産物のPRや消費管区代、価格維持の
効果、農業者へのやりがい等の付与。

関係者のデータベース（人材バンク）
農協に依頼（？）
関係者？
登録内容

登録者の募集方法

区の課題

課題解決のための調査検討シート

～「農」の専門部会～

1. 区の課題

標題

『心が響きあう地域づくり』
事例～地元農産物と地域の交流

課題の内容

～麻生区特性である「農」を通じて、どのように「地域づくり」につなげていくか～

[課題の絞込み] ～19.1.16～
市民農園を通じての交流
市場、直売所を通じての交流
食育を通じての交流

2. 課題に対する現状の行政・区民等の取り組み

行政の取り組み

ア かわさき「農」の新生プランに基づく施策の推進

イ **体験農業 親子で米づくり** (協働推進事業)

～19.2.14～

【関係者(実行委員長)から意見聴取】

ウ **学校における農業体験、食育に関する取組**

～19.3.7～

【小学校あてアンケートの送付】

区民等の取り組み

ア **次世代・地域住民との交流事業**(JA)

～19.2.14～

【関係者(JAセガ川崎)から意見聴取】

イ 直売所を通じた農産物の販売

3. 課題の解決策のアイデア

集会場等で、農家の方から、区民が、料理(梅干、豚汁、たんあん、など)を覚えてもらう。

家庭菜園のための知識・ノウハウを覚えてもらう。

覚えてもらった人が、さらに初めての人に教える仕組みづくり(農のサポーター)

行政などが、野菜や花卉の苗・球根を配布し、区民は、その育て方などを覚えてもらう。(柿の木の事例あり、3年で100本の苗配布・課題・資金)

畑で、農家から、区民が、いちご等の生産物を、一定単位(畝など)で購入できる仕組みづくり

市等の広報誌に、児童などが地元の農家にヒアリングし、記事を作成・掲載

区民の生ごみの堆肥化を促進し、その堆肥を地元農家に利用してもらう。

[学校関連]

「給食だより」に、農家あるいは児童が、地元農家や農産物の紹介等の記事を作成・掲載

学校の花壇に、球根や農家で売れ残った花などを植えに行く。

学校の花壇を畑に転用

アンケート結果の取りまとめ、情報の提供

4. 課題解決策の具体化に向けた検討

短期的対応策

ア 小学校におけるアンケート結果の取りまとめ・情報の提供(各小学校、教育委員会、関係機関等)

イ 食育を通じての地域の交流(モデル校)

ウ

達成期間

主な担い手と役割
区民
・農業従事者、経験者の派遣
・農の市民サポーター

区
・農業従事者、サポーター等の募集・紹介
・取組事例の広報

〇市
・教育委員会、経済局等による事業の推進

関係部局
・教育委員会
・経済局

予算見込み額の検討

予算確保の手法

中・長期的対応策

ア 食育を通じての地域の交流(各小学校)

イ

達成期間

主な担い手と役割
区民

区

市

関係部局

予算見込み額の検討

予算確保の手法

5. 課題解決により期待される効果、成果

ア 食育を通じた地域との交流

イ 地産地消の推進

ウ

6. 総合計画上の位置付け

ア 人を育て心を育むまちづくり

イ 個性と魅力が輝くまちづくり

ウ 参加と協働による市民自治のまちづくり

7. 課題解決に向けた取組

ア 関係機関等へのアンケート結果の情報提供

イ 農業従事者、経験者、農業サポーターの募集や支援を希望する学校への派遣

ウ

8. 課題解決への取組の評価、進行管理

評価

進行管理

王禅寺小学校における農業体験、食育等に関する取組状況について(報告)

調査方法

- 1 日時 5月15日(火)午後3時~午後4時20分
- 2 場所 王禅寺小学校
- 3 応接者 高橋 校長
- 4 調査担当者 麻生区役所総務企画課企画調整担当 向坂・岩佐
- 5 調査の内容 (1) 学校を訪問した趣旨の説明
区民会議の概要
調査審議事例として「地元農産物と地域の交流」を選定した理由
「農の専門部会」での調査検討内容
区内公立小学校あてにアンケートを依頼した理由
モデル候補校として王禅寺小学校を選定した理由
(2) 王禅寺小学校における取組状況について
(3) モデル校としての受入れの可能性について
(4) 学校農園及び校外農園の現状確認

調査概要

- 1 学校農園の状況
 - (1) 校内農園 - 約50㎡の「田んぼ」を主に5年生が総合的な学習として使用
地域の方(1名)に指導をお願いしている。
田植えから、収穫、炊出しまでのほぼ全ての工程を指導者の方に全面的な協力をいただいている。
 - (2) 校外農園 - 約140㎡(学校から徒歩7分程度)の「畑」で「さつまいも」を栽培
土地は、元PTA会長の方の厚意により無償で貸与していただいている。
指導者はいない。栽培しやすく、料理もしやすい「さつまいも」を栽培
- 2 学校の現状
 - (1) 白山小学校との統合
 - (2) 学校創立30周年記念行事
 - (3) 国・県からいくつかの研究事業を受託中
- 3 学校からの要望
 - (1) 学校の状況を理解し、現在の取組を崩さない範囲での支援
 - (2) 農園で汗を流していただける方を紹介していただけるなら受入れは可能
 - (3) 「田んぼ」は、現在指導をされている方との調整が必要
 - (4) 主に「畑」での土起こし、草取り、収穫時の手伝いなどへの協力
 - (5) 併せて、校庭の芝生の手入れなどへの協力
- 4 今後の進め方について
モデル校を依頼するにあたっては、今後の具体的な進め方を含め調整が必要